



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和6年9月25日
文責：校長 江上 知男

1～4年生が社会科見学旅行に行きました！



3年「みかんおいしい！」

先週から今週にかけて、本校は「社会科見学旅行ラッシュ」でした。9月19日の4年生(通潤橋見学)を皮切りに、20日の3年生(みかん狩り・工場見学)、24日の2年生(牧場見学)、25日の1年生(動植物園見学)と、授業日4日間連続です。

毎朝見送っていますが、子どもたちは普段よりもずいぶん明るい表情で出かけていきます。時代が変わっても、「子どもたちは外で学ぶことが好きなんだなあ」と感じさせられます。もちろん、ご家庭から持たせていただく「お弁当」も大きな理由だと思います。

さて、社会科見学旅行にはどんな「意義」があるのでしょうか。私なりに分析してみました。

- ①**理解の深まり**：授業等で学んだ知識を実際に体験することで、理解が深まります。例えば、工場見学で製品がどのように作られるか見聞し、物の価値や製造過程の重要性などを学びます。
- ②**興味・関心の高まり**：実際に見て触れることで、学習意欲が向上します。例えば、通潤橋などの歴史的建造物や動植物園の見学は、歴史や科学への興味を引き出すきっかけとなります。
- ③**社会性の育成**：団体行動を通じて、協調性や責任感を養います。例えば、乗り物での態度や見学地でのあいさつ、時間管理やグループ活動等々、社会生活のマナーを学ぶ機会になります。
- ④**地域との連携**：身近な施設や企業を見学することで、地域社会とのつながりがわかります。例えば、牧場見学やみかん狩りなどをとおして、地域の文化や産業について学びます。
- ⑤**職業選択の参考**：様々な職業に触れることで、職業が身近なものになります。本当の話ですが、私の友人には、小学校時代の消防署見学がきっかけとなって、消防士になった人がいます。

実は、以前と比較して「貸し切りバスの不足」「バス代の値上がり」等が取りざたされるようになりました。町は体験学習を重要視し、バス代を予算化してくれています。ありがたく思うとともに、学校は「少しでも有意義な機会」となるように見学先等を工夫しているところです。今週後半は5年集団宿泊教室、来月初旬には6年修学旅行が予定されています。「天気だけは…」と祈り続ける毎日です。



人には「グー・チョキ・パーの関係」が必要です！

「ジャンケン」とは、いったい誰が考えたのでしょうか？ それぞれが勝つ相手と負ける相手もっています。そのことは、人間関係の「例え」にも使われます。子育て時代の我が家は…、思春期を迎えた子ども(グー)は母親(チョキ)に口答えをします。父親(パー)は子ども(グー)に「だめなものはだめ」と是非を教えます。でも、父親(パー)は母親(チョキ)に叱られてばかり…。ちなみに、我が家はチョキが強くてバランスがかなり狂っていました(汗)。きっと、どの家庭でも多少の「ゆがみ」はあるのでしょうか。

さて、子どもたちの人間関係に当てはめてみると、「グー・チョキ・パーの関係」ができています子ども同士は、楽しそうです。何せ、一人一人が「〇〇では負けるけど、△△では勝つ」「◆◆には自信がある」と思っているため、自分の良さも知っているし相手のことも尊重できます。誰かが強い立場になることはありますが固定しません。だから、みんな言いたいことが言えます。一方、「強い」と「弱い」が固定化…グーとチョキだけの関係になってしまったら…、強い立場の人の発言が「正義」になってしまい、人から指摘されることがなくなります。一人一人が自分らしさを発揮することはとても難しくなります。

少々大げさに書いてしまいましたが、学校でも家庭でも地域でも、人間関係に多少の「ゆがみ」はあっても、何とか「グー・チョキ・パーの関係」を維持していきたいものだと考えています。

9月19日(木)に、PTA文化委員に図書室を整理いただきました。ありがとうございました。